



2011年 新年のご挨拶



病院長
新家 真

新年おめでとうございます。

現在の日本をとりまく経済、政治状況は大変厳しく、医療を取り巻く環境もまたその例外ではありません。特に、いわゆる「地方に於ける病院経営」は医師の新医師臨床研修制度の導入に端を発した実働医師数の絶対的不足のために、もはや、経営とか収支を論じる以前に、患者さんのための医療水準を保つことができなくなっているといわれています。幸いに、私たちの関東中央病院は、東京都内の住宅地にあり、先人のご努力により、都内の大学医局との関係も必ずしも悪くないため、実働医師数の絶対的不足という津波には、まだ襲われないで済んでいます。今まで、常勤医師がおらずいろいろな所にご迷惑をかけておりました、産婦人科、耳鼻咽喉科の常勤医配置の問題についても、本年4月より、まず、一人ずつは東京大学医局からのご援助により可能になる予定となりました。特に、ここ近年の課題であった産婦人科の再開の道の第一歩を踏み出すことができそうな事は、晴れ渡る前の雲間からの一筋の光で、是非、2011年度はその雲間を広げ、次々年度の当院での「お産の再開」に是非ともつなげたいと思います。

近年の医学・医療の進歩は刮目すべきものがありますが、一方では医療行政の進化は遅々としており、その大いなる進歩が十分に国民の福祉に還元されているとは言えません。また、ひたひたと押し寄せてくる超高齢化社会において、社会全体では、どう対応すべきであるかという問題についても、確たる方針が国としてあるようには見えません。このように2011年度も厳しい医療環境が予想されますが、公立学校共済組合8病院の中核病院の名に恥じない水準の医療を提供できるよう、医師・看護師・コメディカル・事務職員など、病院にかかわるすべての職員が一丸となって努力する所存です。新しい計画としましては、乳腺外科の独立はすでに秒読みとなりました。また循環器内科と心臓血管外科のより有機的かつ効率的な連携を目指した心臓血管センター化構想も2011年度に実現をさせたいと思います。

宋代末期の民間詩人「真山民」の五言律詩中の一文に以下の語句があります。

「人心新歲月（じんしんしんさいげつ）、春意旧乾坤（しゅんいきゅうけんこん）」

人の心は、歲月（新年）と共にあらたまり、
（新）春の気配は昔ながらのこの地に満ちてくる。

2011年が皆さま、そして本病院にとりまして、良き年でありますよう心から祈ります。ご指導・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。